

第4回 都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会

議事概要

日時：平成31年4月12日（金）10:00～12:00

場所：中央合同庁舎3号館6階都市局議室

※ 入山ゲスト委員、重松ゲスト委員、的野ゲスト委員からそれぞれ資料に基づき説明がなされた後、委員はじめ出席者間において、主に以下の意見交換がなされた。

[イノベーションを創出する空間]

- イノベーションの創出にはオープンな空間とクローズドな場の両方が必要。新たなプロジェクトは、題目やテーマに惹かれオープンな空間に集まった人々のうち、限られたメンバーがクローズドな場でのコミュニケーションに移行するときに生まれる。
- オープンな空間、クローズドな場は両者重要だが、今の日本ではオープンな空間が不足している。例えば高層ビルのオフィスでは、各階が強固なセキュリティを持ち閉鎖的。巨大なエレベータを低速で動かす等、縦動線の工夫により複層階の間にもコミュニケーションの機会をつくる必要があるのではないか。
- 一方、高度利用されるからこそ都市にイノベーション創出に必要な多様な企業、人の集積が促進される面もある。重要なのは集積した人をどうかきませるか。高層化が問題なのではなく、人々の集積から何か生まれるような制度が必要ではないか。テクノロジーにもコミュニケーション促進の可能性があるのではないか。

また、都市機能の導入を臨機に進めるためには建物の更新だけではなく、更新までの期間を利用したリノベーションによる機能導入という選択肢も有効に活用されるための制度が必要ではないか。

- スタートアップ企業はぐちゃっとしたところを好む傾向がある。また、人を集めるためには、立命館アジア太平洋大学のある大分県別府市や、スパイバー（バイオベンチャー）のある山形県鶴岡市など、おもしろい活動、人に出会えることが重要。

[公的データのオープン化]

- 行政のデータをオープン化しても、利用のルールを厳密に規定しすぎると民間の現行システムとの整合性が合わず利活用されない。また、オープン化したデータの存在がそもそも認識されないと利用されない。パテントは地理的に近接した引用が多いとのデータもあり、物理的な距離は情報の引用、利活用とも結びついている。

[都市と都市との交流]

- 福岡は女性、若者、外国人など、スタートアップの担い手が多様なことが特徴。海外都市との関係では、レガシー企業は地勢的に近い韓国・釜山などの企業とのつながりが強く、スタートアップ企業は台湾・台北などとのつながりが強い。
- 都市への集積が進展している現在、海外都市との交流は重要な観点。エコシステムの形成・成長には、他の強力なエコシステムのダイナミズムや人脈を取り込むことが近道。例えばインド・バンガロールは米国・ボストンやシリコンバレーと、台湾・新竹は米国・シリコンバレーと、それぞれ人的な交流が非常に多い。日本であれば、これからは親日で成長しているインドネシアとのつながりを強める手があるのではないか。

[これからのまちづくり]

- 大丸有地区では、地権者を中心としたまちづくり協議会と自治体等による懇談会において、エリアの将来像とそれを実現するためのルール、手法を議論しガイドラインを策定、随時更新しながら公民協調のまちづくりを推進している。近年のAI、IoT等の技術革新が著しい中、確信ある将来像が描きづらいが、変化のベクトルを見出し「どのようなエリアになりたいか」をエリアで考え共有し、多様な主体による活動を促進することが重要。現在、大丸有地区のスマートシティビジョン検討を進めている。
- 福岡では、スタートアップ企業が増え勢いを増しているタイミングを捉え、「天神ビッグバン」による高さ規制の緩和で、高セキュリティの広いオフィス床の供給が増えている。

[MaaS、自動運転の実装化と都市]

- 今後MaaSや自動運転技術が社会に実装化されていくと、これまで主として不動産が担ってきた機能(宿泊機能等)を自動車での移動中に行えるようになり、不動産価値、都市の価値を保つことが困難になるのではないか。カーシェアリングの利用目的の上位は駐車場に駐車した状態での昼寝や仕事というアンケート結果もあり、自動車は移動手段ではなくプライベート空間として利用されはじめている。その中で不動産の価値を高めるためには、各地域で独自性のあるエリアを創出することが必要になるだろう。
- 移動中の宿泊が可能になれば、二拠点居住も一般化すると考えられる。
- MaaSを実装化する際には、どのようなサービスと組み合わせるかが論点になる。そのまち、エリアに必要なものを考えて組み合わせることが重要となる。その際にまち、エリアの自己分析をする適切な単位・担い手としてエリアマネジメントが重要性をもつと考えられる。MaaSに関わらず、これにより紋切り型のまちづくりを回避し、持続的なエリアの価値向上ができるので

はないか。

- 高齢化の進展に伴い、交通は家の目の前の私有空間まで求められるようになっていくだろう。また、自動運転の実証実験は、タクシー運転手等の人材確保が難しい地方部から行われるのではないか。

(以上)